

M 試験研究機関等及び林業普及指導員

65 学校

(1) 大学 (平成26年3月31日現在)

学校名	開年	校日	学科及び 学科設置 年月日	学定 員数 (人)	生数 (人)	職 員 数 (人)	平成26年3月 卒業 者数 (人)	平成27年3月 卒業見込 者数 (人)	備 考
国立大学法人 北海道大学	明 9. 9. 8		林学科 明40. 6. 22	-	-	-	-	-	平成4年4月1日付け学部改正によ り森林科学科が発足。
			林産学科 昭24. 6. 1	-	-	-	-		
			森林科学科 平4. 4. 1	36	27	38	41		

(2) 農業高等学校 (平成26年3月31日現在)

学校名	開年	校日	森林科学科 (旧林業科) 設置年月日	森林科学科 定員数 (人)	森林科学科 職員数 (人)	平成26年3月 卒業 者数 (人)	平成27年3月 卒業見込 者数 (人)	所管演習林の現況			
								面 積 (ha)	蓄積 (m ³)		
								計	針葉樹	広葉樹	
岩見沢農業 高等学校	明 40. 3. 10		大 9. 5. 1	120 (40)	6	37	33	184.0	24,000	14,000	10,000
帯広農業 高等学校	大 9. 5. 1		昭 18. 4. 1	120 (40)	6	40	39	28.0	6,500	3,000	3,500
旭川農業 高等学校	大 12. 5. 3		大 12. 5. 3	120 (40)	6	41	37	241.7	40,000	7,000	33,000

- 注1 昭和63年3月倶知安農業高等学校林業科閉科。
 2 平成5年3月静内農業高等学校林業科閉科。
 3 平成13年4月岩見沢農業高等学校 森林科学科に改編。
 4 平成14年3月美幌農業高等学校林業科閉科。
 5 平成14年4月旭川農業高等学校 森林科学科に改編。
 6 平成15年4月帯広農業高等学校 森林科学科に改編。

66 試験研究機関

(1) 独立行政法人 森林総合研究所北海道支所 (平成26年3月31日現在)

創 立 の 旨	森林総合研究所北海道支所は、天然林及び人工林など北方系森林において自然力を高度に活用した森林管理技術の開発研究を行うため創立された。 具体的には、森林の育成と保護、林業経営、国土保全、自然保護などの分野を中心に試験研究を推進し、これらの成果を活用し、森林施業の改善、進歩に資し、北方系森林における林業経営の発展に寄与することを目的とする。
所 在 地	札幌市豊平区羊ヶ丘7番地
開 設 年 表	明治41年6月 内務省野幌林業試験場として開設 昭和15年1月 帝室林野局北海道林業試験場を併設 22年5月 林政統一により、内務省野幌林業試験場と帝室林野局北海道林業試験場が合併し、林業試験場となる 28年10月 江別市から札幌市に移転、林業試験場北海道支場に改称 49年10月 札幌市豊平区豊平から豊平区羊ヶ丘に移転 63年10月 森林総合研究所北海道支所に改称 平成13年4月 省庁改編により、独立行政法人森林総合研究所北海道支所を設立 平成19年4月 独立行政法人林木育種センターを統合
研 究 事 業 概	1 森林の育成に関する研究 2 植物と土壌資源に関する研究 3 寒地の環境保全に関する研究 4 森林の生物被害及び生物多様性に関する研究 5 北方林の持続的な経営管理に関する研究 6 森林の健全性評価手法の開発に関する研究 7 CO2収支の統合化モデルの構築に関する研究 8 北方林における持続可能な森林経営に関する研究 9 森林生態系における遺伝子多様性の保全に関する研究
研 究 施 設	本館(3,893m ²) 特殊実験室(848m ²) 生物環境調節実験施設(377m ²) 二酸化炭素動態観測施設(高さ:メイン40m、サブ40m) 野兎生態実験室(142m ²) 鳥類野外実験室(56m ²) 群落水耕温室(300m ²) 樹病隔離温室(135m ²) 日長処理施設(129m ²) 標本館(392m ²) 苗畑調査実験室(345m ²) 鳥獣飼育場(222m ²)
研 究 設 備	DNAシーケンサー イオンクロマトアナライザー エネルギー分散型X線分析装置 低真空走査電子顕微鏡 ガスクロマトグラフ 全窒素全炭素分析装置 迅速(準)ドリル抵抗測定装置

(2) 地方独立行政法人北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場 (平成26年3月31日現在)

創 立 の 旨 森 林 の 多 面 的 機 能 の 発 揮、森 林 資 源 の 循 環 利 用 及 び 身 近 な み ど り 環 境 の 充 実 や 緑 化 樹 関 連 産 業 の 振 興 を 図 る た め に 必 要 な 試 験 研 究 を 行 い、森 林・み ど り づ く り の 推 進 に 寄 与 す る こ と を 目 的 と す る。

所 在 地	美 瑛 市 光 珠 内 町 東 山
開 設 年 表	昭和32年 6月 1日 岩見沢林務署光珠内事業所として設置
	33年 4月 19日 岩見沢林務署光珠内林木育種事業所に改称
	36年 4月 25日 北海道光珠内林木育種場となる
	39年 4月 1日 北海道立林業試験場に改称
	平成11年 4月 1日 緑化樹センターを設置
	22年 4月 1日 地方独立行政法人北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場となる
	道南支場(函館市桔梗372-2)
	昭和41年 4月 18日 道南試験地として設置
	昭和44年 4月 1日 道南分場に改称 昭和50年 8月 18日 道南支場に改称
	道東支場(上川郡新得町字新得西2線)
昭和42年 7月 19日 道東試験地として設置	
昭和46年 8月 5日 道東分場に改称 昭和50年 8月 18日 道東支場に改称	
道北支場(中川郡中川町字菅300)	
昭和45年 7月 1日 道北試験地として設置	
昭和46年 8月 5日 道北分場に改称 昭和50年 8月 18日 道北支場に改称	

研 究 事 業 概 要	1 地域の特性に於いた森林及びみどり環境の充実
	ア 森林の多面的機能の発揮のための研究開発
	① 地球環境及び国土を保全する森林管理技術の研究と開発
	(1) リモートセンシングにおける3次元情報解析技術の開発
	(2) 水土保全機能に配慮したトドマツ人工林伐採手法の提示
	(3) 風況にあわせた風害対策により収量・収益を最大化する人工林管理技術の開発
	(4) 酸性雨モニタリング(土壌・植生)調査
	(5) 湿地生態系における樹木を介した土壌メタンの放出機構の解明
	(6) 防災林の流体力に対する機能向上に関する研究
	(7) カンラン岩流域と森林形態が物質フローおよび陸域・沿岸域生物資源に与える影響の解明
(8) 人工林の保残伐がもたらす生態系サービスを大規模実証実験で明らかにする	
(9) 北海道中標津町を対象とした吹雪発生予測システム活用と効果的な雪氷防災対策への支援	
② 道民の生活環境を守る森林管理技術の研究と開発	
(1) 海岸防災林の津波減衰機能を発揮させる林帯整備・管理方法の開発	
(2) 保安林に対する強度間伐の実証的研究	
(3) 防風林が設置された牧草地における微気象観測	
(4) 海岸生クロマツにおける水ストレス評価方法の開発	
(5) 防雪施設周辺における非平衡状態の吹きだまり形成過程の解明	
③ 森林とのふれあいや道民の森林づくり活動を支援する研究と技術開発	
(1) 企業の森づくり活動体系化による支援手法の提案	
(2) 余暇活動の「市民権の見解」に基づく知的障害者のための森林活動の方策検討	
イ 森林の生物多様性保全と健全性維持のための研究開発	
④ 生物多様性を確保する森林管理技術の研究と開発	
(1) 環境利用情報を活用した遺伝子マーカーによる個体識別を用いたヒグマ生息密度推定法の開発	
(2) 森林管理と連携したエゾシカ個体数管理手法に関する研究	
(3) 溪畔域における溶存有機物(C, N)の動態モニタリング	
(4) トドマツ人工林における保残伐施策が生物多様性に与える効果と保残に伴うコストの評価	
(5) 生息環境の保全に向けた繁殖期のクマゲラ生息調査手法に関する研究	
(6) 森林施策と組み合わせたエゾシカの効率的捕獲方法の確立	
(7) 北海道東部・風蓮川流域における流域保全対策が草地・沿岸域双方の生産活動に与える影響ー森里川海の物質の環・地域住民の環の再生をめざしてー	
(8) 人工林において生物多様性保全と木材生産は両立できるか?ー保残伐実験による検証と普及方法の提案ー	
(9) シカの採食が森林植生に及ぼす不可逆的変化のプロセスの解明	
(10) 林業機械の走行が林床植生発達と樹木の更新に与える影響の解明	
(11) 森ー湿原ー漁業のつながり調査	
⑤ 森林・樹木の健全性を維持するための研究と技術開発	
(1) プラタナス類の衰退を起す病原菌の生態と形態	
(2) モニタリングと天敵利用によるカラマツヤツバキクイムシ総合防除技術開発のための基礎的研究	
(3) 造林木に対する殺そ剤リン化亜鉛の限界薬量薬害試験	
(4) 年輪解析によるウダイカンバ衰退パターンの抽出と衰退の発生に及ぼす食葉性昆虫の影響	
(5) 遺伝子浸透を伴うマイマイガの種分化に関する研究	
(6) 分子データに基づくハバチ類幼虫の同定	
ウ 身近なみどり環境の充実のための研究開発	
⑥ 北海道の風土に適した緑化樹等の新品種や生産技術の研究と開発	
(1) 道産桜における芳香成分等の新たな利用方法の開発	
(2) ジンチョウゲ属樹木の識別に関する基礎的研究	
(3) 芳香成分を有する樹木の機能性評価および効率的な苗木生産技術の開発	
(4) 多目的樹木ヒッコリアエのクローン苗木生産システムの構築	
⑦ 北国の環境に適した緑化技術や維持管理技術の研究と開発	
(1) 都市空間における快適な生活のためのツル植物を活用した緑化の実用化	
(2) 共振測定装置による立木の内部欠陥診断技術の高度化と装置の利便性の向上	
(3) 遊休農地の樹林化並びに小果樹生産地としての利用を目指した技術の開発	
(4) 石炭露天掘り跡地の初期成長促進を図る木本緑化技術の向上	

研 究 施 設	2 林業の健全な発展及び森林資源の循環利用の推進
	ア 林業の持続的な発展のための研究開発
研 究 設 備	⑧ 森林資源の充実を図る育林技術の研究と開発
	(1) 地球温暖化と生産構造の変化に対応できる北海道農林業の構築
	(2) 「新たな住まい」と森林資源循環による持続可能な地域の形成
	(3) トドマツ人工林資源の持続的・安定的利用を目指した新たな施業指針の確立
	(4) 人工林における針葉樹天然更新技術の提案
	(5) ヒバ植栽地の成績に及ぼす要因の解明と対策の検討
	(6) 道南スギ人工林収穫予測ソフトの開発
	(7) 林分状況に応じたカラマツ人工林単木管理手法の提案
	(8) 北海道固有の森林再生を目指したエゾマツの早出し健全苗生産システムの開発
	⑨ 森林施業の低コスト化と森林資源の高度利用を図る技術の研究と開発
	(1) 集材方法及び地形条件を考慮した森林作業道適正配置パターンの提案
	(2) 収益性及び資源構成に基づく林業経営シミュレーションモデルの開発
	(3) カラマツ類を用いた短伐期・低コスト林業システムの開発
	(4) ITにより低コストに人工林材から内装材を製造する生産・加工システムの開発
	⑩ 新たな品種開発に向けた林木育種技術の研究と高度化
	(1) 北海道に適したコンテナ苗木生産技術の開発
	(2) カラマツ類の効率的な着花促進法の検討
	(3) 森林及び林業分野における温暖化緩和技術の開発
	庁舎(1,579㎡) 実験棟(2,674㎡) 研修宿舎(1,176㎡) 温室(148㎡) 車庫(80㎡)
	林業機械等整備格納庫(751㎡) 展示館「緑の情報館」(349㎡)
	低温室 恒温室 恒温器室 クリーンルーム 恒温培養装置 回転振とう培養装置
	クリーンベンチ ドラフトチャンバー リモセン多重解析システム 地図情報解析システム
	フェラーバンチャ クローラ型林業用トラクタ
	グラップルスキッド タワーヤーダ 原子吸光分光光度計 イオンクロマトグラフ
	ガスクロマトグラフ その他理化学機器

(3) 地方独立行政法人北海道立総合研究機構森林研究本部林産試験場 (平成26年3月31日現在)

創 立 の 旨	木材利用の多様化、林産工業の体質強化、未利用資源の活用等を図るため、木材需要拡大につながる新技術・新製品の開発、森林資源の有効利用技術、製材・乾燥・加工等の基本技術の改善及び先端技術の導入に関する試験研究を行い、林産業の振興に寄与することを目的とする。
所 在 地	旭川市西神楽1線10号
開 設 年 表	昭和25年8月19日 北海道立林業指導所として旭川市緑町に開設 39年4月1日 北海道立林産試験場に改称 61年11月21日 旭川市緑町から旭川市西神楽に移転 平成元年6月3日 木と暮らしの情報館開設 平成22年4月1日 地方独立行政法人北海道立総合研究機構森林研究本部林産試験場に改称

研 究 事 業 概 要	<p>1 林業の健全な発展と森林資源の循環利用の促進</p> <p>ア 林業の持続的な発展のための研究開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 森林施業低コスト化と森林資源の高度利用を図る技術の研究と開発 <ul style="list-style-type: none"> (1) 原木横断面内における材質分布の非破壊評価手法の開発 (2) 樹木の成長と細胞壁のセルロースマイクロフィブリルの性質 (3) 道内モデル地域における木質バイオマス発電導入による環境的・経済的影響の評価 (4) 樹木の木部の構造改質による材料開発 - 力学的性質の異なる樹木から力学的性能の均一な材料へ - イ 森林バイオマスの総合利用の推進のための研究開発 <ul style="list-style-type: none"> ○ 環境負荷の低い木材の改質・利用技術の研究と開発 <ul style="list-style-type: none"> (1) セルロースを出発原料とする白金代替燃料電池用ウッドカーボンカソード触媒の開発 (2) 国産材を原料としたアセチル化木材の製造技術の検討 (3) 木質熱処理物のイオン交換性およびその金属錯体 - 金属種の相違が及ぼす影響に関する検討 - (4) 化石資源代替材料創製に向けた木質バイオマスの急速熱分解条件の最適化 ○ 森林バイオマスの成分・エネルギー利用技術の研究と開発 <ul style="list-style-type: none"> (1) 樹皮を原料とするバイオリファイナリーの構築に向けた基礎的検討 (2) パルプリジェクトを原料とするバイオエタノール製造に向けた基礎的検討 (3) 木質系バイオマス燃料のグレードアップに関する研究 (4) 農業用廃プラスチックの再利用に関する研究 (5) カラマツ類の樹皮における二次代謝物と組織による化学的防御戦略の解明 (6) エネルギーの有効活用のための高熱伝導性炭素-金属複合材料の開発 <p>2 技術力の向上による木材関連産業の振興</p> <p>ア 木材・木製品・木質構造物の安全性・信頼性・快適性向上のための研究開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 木材・木製品の耐久性、耐火性の向上及び評価技術の研究と開発 <ul style="list-style-type: none"> (1) 公共建築物の内装木質化を促進する道産木質防火材料の開発 (2) 天然接着剤および国産材を主原料とする環境配慮型MDFの開発 (3) 屋外における単板積層材の耐候性能および耐朽性能に関する検討 (4) 各種保存処理を行った合板の耐久性評価 (5) 積雪寒冷地域に適した耐候性能の高い無機系塗料の開発 (6) 高浸透性木材保存剤で処理した単板を用いた高耐久性木質材料の製造技術の確立 (7) 接合金物による腐朽柱脚接合部の補強効果に関する研究 (8) 道南スギを用いた防火木材の製造技術の開発 (9) FMCWレーダによる非破壊診断装置の腐朽検知に関する性能評価 (10) 集成材に含まれる木材保存剤の高精度かつ効率的な分析方法の開発 (11) 屋外暴露による防錆処理鋼板の劣化評価に関する研究 ○ 安全で合理的な木質構造物の評価・設計技術の研究と開発 <ul style="list-style-type: none"> (1) 木材の接着健全性評価技術の検討 (2) 長期間の実使用環境下における構造用合板の耐久性評価 (3) 道産材を用いた枠組壁工法用製材の性能評価と利用技術の開発 (4) 運動床温水床暖房システムにおける利用法の変化に伴う対応法の開発 (5) 合理的な木質接合部を実現するための異種接合具併用接合に関する研究 (6) スクリューの引抜き性能における有限要素法結果と実験結果の比較 (7) 腐朽部材を接合金物で補強した場合の強度に関する研究 (8) 国産材を用いた接着重ね梁の長期性能評価 (9) 国産材を用いたCLTの強度性能評価 (10) 国産小径材を用いた接着屋根梁の長期性能評価 (11) 国産材を高度利用した木質系構造用面材の開発による木造建築物への用途拡大 (12) 住宅への木材利用がもたらす健康増進効果のエビデンス構築 ○ 木材利用による居住性・快適性の評価技術の研究と開発 <ul style="list-style-type: none"> (1) 良質な木造共同住宅のためのローコスト高性能遮音工法の開発 (2) 道産針葉樹材を用いた木製サッシの耐久性向上技術の開発 (3) 安全・快適なベット共生型木質系床材の開発と床仕様の検討 イ 特用林産物の高付加価値化のための研究開発 <ul style="list-style-type: none"> ○ 機能性や食味に優れたきのこの生産・利用技術の研究と開発 <ul style="list-style-type: none"> (1) 菌根性きのこ感染苗作出技術の開発 (2) 道産ニュータイプキノコの育成と素材利用に向けた研究 (3) 突然変異育種法を利用した栽培きのこの有用形質創出とそのDNAマーカーの開発 (4) 地域資源の活用による有効な新ブナシメジの開発 (5) 早生樹「ヤナギ」を活用したシイタケ栽培技術の検討 (6) 食用きのこを活用した畜産廃棄物の生物変換システムの開発 (7) マイタケの高機能性プレバイオティクス食品としての実証と低コスト栽培技術の普及 (8) ヤナギ有効活用調査研究
-------------	---

ウ 木材加工技術や生産・流通システムの高度化のための研究開発	<ul style="list-style-type: none"> ○ 道産人工林材による高品質な建築材の生産技術の研究と開発 <ul style="list-style-type: none"> (1) 表面性状の制御による安全・快適なベット共生型床材の開発 (2) 木造公共建築の促進に向けた課題の把握と対応策の検討 (3) 高気密・断熱住宅対応のカラマツ無垢構造材の開発 (4) 北海道産人工林材を用いたプレミアム集成材の開発 (5) 枠組壁工法住宅における道産人工林材の有効利用法の検討 (6) アカエゾマツ人工林間伐材の製材品質に関する調査 ○ 市場性の高い木製品や機械・装置等の研究と開発 <ul style="list-style-type: none"> (1) ITIにより低コストに人工林材から内装材を製造する生産・加工システムの開発 (2) CNC複合型木工旋盤の開発 (3) 国産材および植林木を原料としたMDFの検討 (4) 椅子座面の専用加工機・形状測定機の開発 (5) 高機能フェノール樹脂を用いた木質ボードの検討 (6) 競争力の高い木製防護柵の開発 (7) 北海道産白樺を用いた吸音パネル材の開発 (8) 地域活性化につながる木製品づくりの検討 (9) 伐採木材の高度利用技術の開発 (10) 切削式粉碎機による林地残材活用技術の検討 (11) レーザーによる厚板の切断条件に関する検討 ○ 地域材の効率的生産・流通システムの研究と開発 <ul style="list-style-type: none"> (1) 地球温暖化と生産構造の変化に対応できる北海道農林業の構築 (2) 「新たな住まい」と森林資源循環による持続可能な地域の形成 (3) FITが及ぼす製材業への影響評価と木質バイオマス発電のLCA
研 究 施 設	<p>庁舎(2,941㎡) 製材試験棟(995㎡) 粉碎成形試験棟(933㎡) 加工試験棟(995㎡)</p> <p>応用試験棟(991㎡) 合板試験棟(1,243㎡) 性能試験棟(817㎡) 動力管理棟(1,021㎡)</p> <p>研究棟(968㎡) 木と暮らしの情報館(545㎡) きのご試験室(239㎡) 多機能炭化物試験室(139㎡)</p>
研 究 設 備	<p>製材試験プラント 乾燥試験プラント 加工試験プラント 合板試験プラント</p> <p>粉碎成形試験プラント 林産機械試験設備 注入試験装置 成分利用実験装置</p> <p>培養試験装置 性能試験装置 塗装接着試験装置 燃焼試験装置 耐候試験装置</p> <p>材料測定・組織観察装置 分析・共通機器その他</p>

67 林木育種事業の研究機関

(1) 独立行政法人 森林総合研究所林木育種センター北海道育種場 (平成26年3月31日現在)

創立の主旨	成長、材質の優れた木（精英樹）や病虫害害、気象害等に対する抵抗性の強い木を選抜し、それらの特性を解析し、遺伝的に優れた種苗を創り出すとともに、その種苗の配布等を行うことを目的としている。 また、在来の有用な樹種、枯損の危機に瀕している巨樹・名木等の貴重な遺伝資源の探索・収集・保存・評価にも取り組んでいる。		
所在地	江別市文京台緑町561番地1		
開設年月日	昭和32年4月1日		
研究事業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 トドマツ及びカラマツの第二世代精英樹の選抜 2 材質の優れたトドマツ品種の開発 3 木質バイオマス生産に適したヤナギ品種の開発 4 北方針葉樹の着花促進技術の開発 5 北方樹種のコンテナポット育苗技術の開発 6 成長の優れたトウヒ属種間雑種の創出 7 林木遺伝資源の収集・保存戦略の構築 8 検定林調査、人工交配、検定林（第二世代）造成 9 林木遺伝資源の探索・収集、増殖・保存、特性評価、情報管理 10 採種園造成のための原種の生産・配布 		
事業施設	原種苗畑(1.62ha) 遺伝資源保存園(9.30ha) 育種素材保存園(42.65ha) 交配園(4.56ha) 試験園(8.94ha) 計 67.07ha		
研究設備	実験棟(163㎡) 材質検定用木工室(91㎡) 交配検定用温室(148㎡) 遺伝子等解析室(42㎡) 組織培養環境順化室(75㎡) 増殖材料貯蔵室(59㎡)		
備考	<ol style="list-style-type: none"> 1 つぎ木 クローン数 230 2,959本 2 払出 クローン・系統数 24 790本 		

(2) 国立大学法人 東京大学 大学院農学生命科学研究科附属演習林北海道演習林 (平成26年3月31日現在)

創立の主旨	学術として林木育種の基礎的研究を行うとともに、一部北海道における重要造林樹種の品種改良に係る具体的問題の研究を行うことを目的としている。		
所在地	富良野市山部113番地		
開設年月日	昭和27年8月		
研究事業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 カラマツ属樹木の育種材料の系統保存 2 外来樹種の本道における導入適応性の検討 3 トドマツの標高別変異の解明 4 優良広葉樹の遺伝子資源の保存及び増殖 5 エゾマツ、ブナ、ミズナラ、カバノキ属の産地試験 		
事業施設	育種系統試験林(11.69ha) 生態遺伝特性試験地(8.97ha) 外来樹種試験地(10.49ha) 採種園・採種林(3.31ha) クローン集植所(9.84ha) 樹木園・見本林(30.42ha) 計 74.72ha		
研究設備	実験室(75㎡) 温室(63㎡)		

(3) 地方独立行政法人北海道立総合研究機構森林研究本部林業試験場 森林資源部経営グループ(道南支場、道東支場、道北支場) (平成26年3月31日現在)

創立の主旨	民有林の生産性を高めるために、生長の早い形質の良く諸害に強い林木の選抜育成及び新品種を作出する試験研究並びに林木育種に関する技術指導を行うことを目的とする。		
所在地	美瑛市光珠内町東山(道南支場-函館市桔梗372-2、道東支場-上川郡新得町字新得西2線、道北支場-中川郡中川町字誉300)		
開設年月日	昭和32年6月1日		
研究事業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 優良遺伝資源の開発と育成 2 優良遺伝資源の短期増殖技術の開発 3 遺伝資源の評価、保全 		
事業施設	苗畑(2.74ha) 採種園(3.80ha) 集植所(6.60ha) 検定林・試験林(19.89ha) 計 33.03ha		
研究設備	実験室(235㎡) 温室		

68 林業普及指導員の配置 (平成26年3月31日現在)

区分	配置数 (人)	一般民有林 指導森林面積 (ha)	林業普及指 導員一人当 たり平均指 導森林面積 (ha)	森林所有者数 (人)	林業普及指 導員一人当 たり平均指 導森林所 有者数 (人)	
本庁	9	-	-	-	-	
(総合) 振興局森林室	石狩	5	49,514	9,903	5,747	1,149
	渡島東部	5	100,870	20,174	12,929	2,586
	渡島西部	3	26,161	8,720	4,139	1,380
	檜山	6	60,856	10,143	7,529	1,255
	後志	6	134,503	22,417	18,469	3,078
	空知	8	108,624	13,578	8,648	1,081
	上川南部	8	141,709	17,714	10,760	1,345
	上川北部	5	80,545	16,109	5,972	1,194
	留萌	6	72,736	12,123	4,057	676
	宗谷	5	156,452	31,290	3,996	799
	林-ツノ東部	9	106,610	11,846	11,248	1,250
	林-ツノ西部	7	124,786	17,827	5,213	745
	胆振	7	119,661	17,094	9,500	1,357
	日高	7	121,938	17,420	6,316	902
十勝	12	230,874	19,240	13,638	1,137	
釧路	6	176,949	29,492	6,494	1,082	
根室	4	58,404	14,601	3,823	956	
小計	109	1,871,192	17,167	138,478	1,270	
合計	118	1,871,192	17,167	138,478	1,270	

北海道水産林務部森林環境局森林活用課調べ